

## 水と私たち

横浜市立南戸塚中学校

三年 若狭 いおり

私は、当たり前のように蛇口をひねり、水を使ってい

ます。でも、このように蛇口をひねるだけできれいで安全な水が出てくるのは当たり前ではないと、あるきっかけで知りました。それは、何気なく見ていた、ウクライナについての記事でした。そこでは、住んでいる場所を追われ避難する市民や町の様子他に、深刻な水不足について取りあげられていました。住んでいる人々は安全な水を手に入れるために、トラックで輸入された水に頼るか、近隣の村まで出かけて井戸の水を汲まなければならぬというのです。

今の日本には、ウクライナのような戦争の危機は差し迫ってはいないかもしれないけれど、地震などの自然災害が起きると生活のための水が手に入らなくなること

十分考えられます。そのための備えとしてどんなことをしているのか、親に尋ねてみました。親が教えてくれたのは、飲料水を定期購入して家族四人が三日間生活できるようにしているということです。実際にこのように水を備えたおかげで、災害時に水不足にならなかった、という人が多くいたからだそうです。水があるだけで、お風呂や料理、手洗いをすることができるので、水は、私たちの生活になくてはならない存在です。

また、水を長期的に使うためには、節水することも大切だと思います。でも、節水することがどのようなことに繋がるのか正直よく知りませんでした。そこで、浄水場に勤めている伯父に話を聞いてみました。伯父は、電氣を使ってポンプで水を常に供給している、と教えてくれました。つまり水を使用する度に、電力が使われているということなのです。さらに、電力を使うと二酸化炭素が発生するので、水を使いすぎると地球温暖化が早まる原因にもなります。これを聞いて私は、普段から使わない時は蛇口を閉める、お風呂の水を再利用する、など身近なところからでも、節水を心がけていきたいと改めて思いました。

他にも、浄水場での仕事内容を教えてもらいました。水圧の確認、水の消毒作業などすべて大変な仕事でした。浄水場での仕事には、他にも役割があるようなので、私たちが安全な水を使えるようになるまでにたくさんの方が関わっているということです。私は、これを聞くまでは節水するのは地球のためだとばかり考えていました。でも、たくさんの方の努力があったからこそ水を使えていると思うと、感謝しなければならぬな、と感じるようになりました。

私は、これらの見たり聞いたりした経験から、二つ思うことがあります。

一つ目は、少しの行動でも、地球の役に立つことができるということです。たとえば、前に書いた通り、水をおだ使いしないように使わない時は蛇口を閉める、再利用するなどがあげられます。このくらい簡単であれば、すぐ実行できる他に、周りの人に広めるのも簡単だと思います。

二つ目は、深刻な水不足が起こっていることや、水を使いたくても使えない、という事実があることを、知っておくべきだということです。すぐには変えられない問

題だから、私が直接手助けをすることはできないかもしれませんが、でも、知っておくことで、募金に参加したりボランティアをしたりと、悩まされる人へのサポートができるのではないのでしょうか。ですから私はこれから、実際に行っていきたいと思うし、広めることもしていきたいです。